

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 寛善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ～

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演Ⅳ

座長： 琉球大学 齋藤 誠一

**16. 柴苓湯の使用で生活の質を担保し得た
エンザルタミド治療中の去勢抵抗性
前立腺癌の一例**

大阪医科大学泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科

○稲元 輝生、伊夫貴 直和、辻野 拓也、松永 知久
吉川 勇希、齋藤 賢吉、内本 泰三、平野 一
能見 勇人、東 治人

ツムラ柴苓湯は浮腫の改善や炎症の改善を目的とした使用がなされている。内因性のステロイドの効果を増強させる報告が多くみられ、外科や整形外科領域での術後の創傷周囲の浮腫の改善を検討した小規模な前向き試験の報告もなされている。一方、浮腫や炎症の際に上昇する血清C反応性たんぱく Serum C-reactive protein (CRP) は去勢抵抗性前立腺癌 (CRPC) の生存を予測するマーカーとしての報告が最近になり散見されるようになっている (Urol Oncol. 2012 January ; 30(1): 33-37)。では、CRP と CRPC の治療に用いられる薬剤の副作用に因果関係はあるのだろうか。2011年にArmstrongらのグループからの報告でHDAC4の制御ドメインに結合してHIF-1 α 等の脱アセチル化を抑制することで癌細胞の生存と血管新生反応の抑制を来すとされるTasquinimodの副作用とCRPの関連が示されている (ASCO-GU 2011 abstract# 126・J Clin Oncol 29:4022-4028)。彼らによれば、リパーゼやアミラーゼに加えてCRPの値が治療に反応して上昇し、これらは6か月以内に正常値に戻るとされている。注目すべきはCRPの上昇は副作用の中で関節痛と四肢の疼痛の頻度と関連があったとのことである (ASCO-GU 2011 abstract# 126)。エンザルタミドは2014年3月24日の製造販売が承認以降CRPCに対して広く国内で用いられる傍ら、国内外の臨床試験において何らかの副作用 (高血圧、便秘、疲労、食欲減退、体重減少、心電図QT延長、無力症、ほてり、悪心など) が66～69.3%に認められている。我々は、CRPCの患者の治療としてエンザルタミドを用い、1日1回160mgの容量で用いた場合の倦怠感と生活の質の低下が柴苓湯を使用することで予防できた一例を経験したので文献的考察を加えて報告する。患者は63歳、初診時のPSA 530ng/ml・T3bN1M1でグリーンスコアは4+5、14年前からADTを開始。完結投与に切り替えていたが3年後にCRPCになりエチニルエストラジオールの投与に変更したもののPSAが再度上昇し2015年10月からはエンザルタミド1日1回80mgを投与した。その後もPSAが上昇してきたために1日1回160mg投与に切り替えた。80mg投与の時から倦怠感がシビアになり柴苓湯を投与。日本語版Brief Fatigue Inventory (簡易倦怠感尺度) で問診を行ったところ柴苓湯使用の前後で倦怠感の強さ3項目と倦怠感による生活への支障6項目のスコアが著明に改善していた。